



# 一條記念みちのく大賞典

OP・ダート2000m M1  
6月29日（日）水沢競馬場  
昨年の優勝馬・ヒロシケン

社台スタリオンステーション協賛

## 第53回 一條記念みちのく大賞典（M1） （レイデオロ賞）

水沢競馬場／3歳以上OP・ダート2000m

6月29日（日）第12競走 18：15発走

岩手競馬のシーズン前半戦総決算。歴代の勝ち馬欄にはあのメイセイオペラをはじめエンパイアペガサスやトニージェント、さらにはトウケイニセイ・モリユウプリンス、スィフトセイダイ・グレートホープといったそれぞれが一時代を築き、そして岩手競馬史にその名を刻んだ馬たちの名が連なります。

過去に連覇を成し遂げたのはスリーパレード（7回・8回）、スィフトセイダイ（18回・19回）、グレートホープ（19回※同着優勝・20回）、モリユウプリンス（22回・23回）、メイセイオペラ（26回～28回※3連覇）、トニージェント（32回・33回）、エンパイアペガサス（45回・46回）の7頭でした。

### ■ノーブルサターン(牡11 水沢・板垣吉則厩舎)



華々しく重賞を連勝していた頃を思えば成績としては物足りなくも感じる近走だが、しかしあわやという所まで攻め込んだ昨年の桐花賞、フジユージーンの追撃にギリギリまで耐えた赤松杯とまだまだ存在感は十分。11歳夏、古豪健在と見るべきだ。みちのく大賞典には23年の一度のみの参戦で7着に終わっているが、同じ水沢2000mの桐花賞では3戦2勝3着1回なのだからコース・距離は好相性と言えるはず。改めて底力発揮に期待してみたい。

「状態は変わらないというか普段の調教で良く見せないというか。追い切りがイマイチだなと思ってもレースでは良い走りをしたりと去年くらいからそういう感じを見せる。順調には来ていますが、ゲートを出てみないと・・・が正直な所です（板垣吉則調教師）」

## ■サンビュート(セ8 水沢・菅原勲厩舎)



JRA2勝クラスからホッカイドウ競馬に移籍、南関と門別を行き来しながら22年の道営記念を制して北の頂点に立った。翌23年にも瑞穂賞を勝って重賞2勝目。その2年ほどの間は間違いなく門別のトップクラスの一角にあった。それだけに昨年からの不振が気になるのは確かだが、右回りでの実績が厚い馬だけに岩手での2戦は久しぶりの左回りだからと割り切れる部分もあるだろう。今回の舞台は門別ではほとんど崩れることがなかった右回り・2000m。これが変化のきっかけになるのかも。

「本来の状態であればここでも良い勝負ができる馬だと思うのですが、なかなか状態が本物に戻ってこない。レースを走りながらきっかけを掴みたい（菅原勲調教師）」

## ■サクラトップキッド(牡4 水沢・伊藤和忍厩舎)



昨年の青藍賞。ヒロシクンから1秒1離された3着だったが手綱を取った高橋悠里騎手は「古馬相手でもやれますよ」と即答。のちの北上川大賞典では史上初の3歳馬による制覇を果たしたのだからその手応えは本物だった。同世代に強力すぎるライバルがいたためになかなか表舞台に立てなかったがこの馬も着実に力を付けてきた。今思えばこの世代はなかなかの粒ぞろい。フジュージーン不在の一番、同期の誇りはこの馬が守る。

「春先はなかなか使えず前走も正直6割7割くらいのデキだったのですが思った以上に良い走りをしてくれました。エンジンさえかかればコースに関係なく動いてくれる馬なのでこの距離も心配していません（伊藤和忍調教師）」

## ■ライアン(牡6 水沢・佐藤浩一厩舎)



昨年はせきれい賞で遠征馬を退け、桐花賞では僅差ながらもしぶとく戦い抜いて栄冠を手にした。その勝利が人気薄だったことで穴馬っぽいイメージを持たれたが、その他のレースでも非常に手堅い戦いを見せており、思っている以上に強い馬だ…という評価は今でも変わらない。強いて課題を挙げるとすればやはり馬場状態を選ぶ点か。戦績を見て分かるとおりに得意なのはいわゆる雨馬場。雨が降れば別の馬のような強さを発揮する。雨の味方があれば鬼に金棒。

「春先に思い通りのローテーションを取れなかったせいなのか、昨年よりは何か物足りない感じが残る。ここまで順調に来ているし追い切りもしっかりこなしているのですが今ひとつ強気になれない。雨の味方があれば（佐藤浩一調教師）」



## ■ヒロシクン(セ6 水沢・佐藤雅彦厩舎)



“ヒロシクンは強くなった”。ここに来ての周囲の評価は大きく上昇している。フジユーゾーンを2度も退けた戦いを見せられたらそれも当然だろう。「早い時期にセン馬になったくらいの馬だけど今はうるさい所は見せない。それどころか調教が終わったらすぐ寝てしまうくらいに図太い」。佐藤雅彦調教師は今のヒロシクンを“変わりが無い馬”と表現するが、それくらい安定している、今が充実期なのだと受け取りたい。勝てば7年ぶり史上8頭目の連覇達成。その道は自らの走りで切り開く。

「前走後も変わりなく順調。そう言えるくらい安定しているということでしょう。枠順もちょうど良い。明確な同型がないことが展開の紛れに繋がらなければこの馬の走りはしてくれるでしょう（佐藤雅彦調教師）」

## ■クリコマ(牡4 水沢・酒井仁厩舎)



川崎でデビューしてからの4戦では3勝2着1回の強さを誇り3歳クラシック路線にも手が届きかけた馬。前走は11番人気1着という激走だったが、元々のこの馬への期待と実績を思えばそれがフロックとも思えない。「来た当初は環境の変化に戸惑っただろうし疲れも残っていたのでしょう。馬房の位置を変えたりして試行錯誤した効果がようやく現れてきたのでは」と酒井仁調教師。岩手では初の重賞挑戦だが南関東では高いレベルの重賞に挑んできた経験がある。復活なったのなら侮れない。

「転入当初は環境に慣れるのにも時間がかかって順調さを欠いた部分がありました。前走くらい戦えるのが本来の力だと思いますし、気持ちよく走ってくれば（酒井仁調教師）」

## ■トーセンマッシモ(セ7 水沢・佐藤浩一厩舎)



前走のあすなろ賞では5着、優勝争いからは少し離れてはいたが上がり最速で押し上げてきていた事は覚えておきたい点。春初戦の栗駒賞で感じた身体の緩さも前走時にはグッと締まりを増してきていたし、佐藤浩一調教師が言うように今ここに来て上昇ムードなのは間違いないだろう。昨年の青藍賞ではヒロシクンから約11馬身差の7着だった。この差を埋めるのは簡単ではないが、上り調子の勢いではここでもひけを取らないと考えたい。

「春先のスタートが遅かった分、今になって日に日に良くなってきている印象です。前走もまだ良化途上に加えて相手が強いかなと思っていたが健闘してくれましたし、今回はそこからの上積みもあるのではないのでしょうか（佐藤浩一調教師）」

### ■リケアカプチャーノ(牝3 水沢・菅原勲厩舎)



13年ぶりの3歳馬によるみちのく大賞典挑戦だ。前走後は順当に同世代との戦いを選ぶかと思われたのだが、しかし陣営は『チャレンジ』を選択してきた。夏頃の3歳馬が古馬と互角に渡りあう例も決して無いわけではないが、あくまでもそれはレアケースで通常は秋を迎える頃になってから。それでも敢えて挑むのはこの馬をさらに強くするための課題を課したのだと判断したい。相手は昨年古馬重賞を制している馬たち、胸を借りるに不足なし。だが、胸を借りるだけで済ませるつもりは無いはずだ。

「古馬への挑戦は時期的には少し早いとは思いますが、前走からも順調に来ていて今は状態が良い。ここでどれくらい戦えるかを見てみたいですね（菅原勲調教師）」

### ■ミニアチュール(牝5 水沢・佐藤祐司厩舎)



シアンモア記念では2強に懸命に食い下がる3着、あすなろ賞では最後までヘリオスと真っ向勝負を演じ続け手2着。内容も着順も、近年のそのレースに挑んだ牝馬としては十分に胸を張れる結果と言えるだろう。しかしそれが逆にもどかしいと佐藤祐司調教師は振り返る。「状態は悪くない、レース内容も十分。それでも勝てないのが牡馬と牝馬の壁なのか」。昨年の桐花賞を思い返せばこのメンバーでも力に不足はない。あと一歩。その壁を乗り越えるための戦いを挑む。

「ここ二戦が悪くない競馬をしているだけに逆にどこに差があるのか？と感じてしまう。状態は悪くないので勝ち切れる走りを期待しています（佐藤祐司調教師）」

### ■ドテライヤツ(牡8 水沢・菅原勲厩舎)



現同厩のサンビュートとは1年違いの22年に川崎から門別に移籍、重賞勝ちも22年瑞穂賞のみに留まるが、この間サンビュートでありリンノレジェンド、シルトプレ、ベルピットらの門別のトップクラスと互角に渡りあってきていたこの馬も間違いなく一線級にあった。

昨冬に岩手に移籍してからはなかなかかつての“らしさ”が戻ってこなかったが桜の季節になってグンと存在感を増してきている。どちらかといえば広いコース向きかもしれないが距離に難はないだろう。この馬もまだまだ軽視禁物だ。

「ここに来て状態は良くなっています。今回は相手が少し強いかと感じますがひとつでも上の着順を目指して頑張ってもらいたいですね（菅原勲調教師）」